



● 研究会旬間に環境色彩研究会から

例年の研究会大会に代わる研究会旬間に、環境色彩研究会から、永田泰弘の体験報告他という内容で参加することになりました。

永田は、在職中に日本各地の自治体の景観色彩基準の策定の仕事をして参りました。その集大成とも言えるのが、景観法に基づく東京都の「届出対象建築物等の色彩基準」です。

色彩基準策定に当たって、必ず現地の建築物の外装色彩の撮影と、測定色彩が必要でした。そのために、カメラ・色票・色彩計・記録票を持って、手早く調査を行うために、3名のクルーで現地に出向き、分業しながら行うのが通常でした。調査後の色票の作成も手仕事なので負担でした。

今回の体験報告は、千葉県の良い寺院の門前町を対象とした、企画から調査と色彩基準の提案までの作業を一人で行った体験を話します。要点は、撮影した写真から、パソコン上で色の抽出転写をする手法を用いたことです。実行して下さる方があれば幸いです。

11月27日(土)10時~12時に、「体験報告：一人で出来る景観色彩基準」と題して話します。同日の14時~16時には3人の会員による、景観の中の色遣いについての報告があります。聴講してください。(永田泰弘)

色点描 奄美大島に色を訪ねて

鹿児島県の奄美大島は、2021年7月にユネスコ世界自然遺産に認定されました。

手つかずの美しい自然と希少動植物の宝庫である、彩りの島です。

私が、旅で印象に残った色をお伝えします。緑：「ヒカゲヒゴ」などのマングローブ原生林の深い緑。

青：サンゴ礁の透き通った青い海、瑠璃色の羽の「ルリカケス」。

赤：日本画に新風をもたらした孤高の画家、田中一村が描いた鳥「アカショウビン」。

黄：郷土料理の「鶏飯」の錦糸卵や田中一村が好んで描いた植物の「アダン」の熟れた実。

黒：特別天然記念物の「アマミノクロウサギ」、風味いっぱい「黒糖」、泥染の「大島紬」。

白：真珠層から虹色の輝きを放つ「夜光貝」。この貝は南方にのみ生息するサザエ科の大型巻貝で厚い殻を持ち、古くから美術工芸品に用いられて正倉院宝物や中尊寺金色堂の螺鈿細工にみられます。夜光貝の気品ある深い輝きを「青貝色」というのを思い出しました。

そして、鮮やかで色とりどりの花や蝶たちの色彩も忘れられません。奄美大島は色彩感覚を大いに刺激し、目を喜ばせ、心を解放させる場所でした。(園田好江)

● 色彩データ・ライブラリ解説-15

17- 色彩教材研究会会報は色彩教材研究会が、会員宛に郵送していた会報のPDFデータを多くの方々の協力で集めたものです。

No.1からNo.5は見つかりませんでしたが、1999年のNo.6から2013年のNo.56まで多少の抜けがありますが、研究会の活動記録としての価値があります。

このブロックは利用料は無料になっています。過去の活動から得られるものがあるかもしれません。

18- 色彩教材研究会通信は、現在木曜日週刊発行でメール配信している色彩教材研究会の定期刊行物で、2017年の4月のNo.21から現在も継続しています。このブロックも利用料は無料になっています。

19- 教材ひろばは、色彩教材色彩教材研究会通信と同じ体裁で、活動結果の報告の形をとった、不定期発行のデータです。2011年のNo.1から2013年のNo.23まで短期間に発行された、ビジュアルな内容の教材資料と言えるでしょう。

以上で色彩データ・ライブラリの解説は終了いたします。1件の利用料が100円と安価で、学会事務局に申込みれば使える便利さがあります。(永田泰弘) 申込先：学会事務局